

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 10 月 20 日

【評価実施概要】

事業所番号	4071401105		
法人名	有限会社 タワラ		
事業所名	グループホーム 幸せの枝		
所在地	福岡市早良区田村4丁目19-24 〒 814-0175 (電話) 092-863-1556		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年10月14日	評価確定日	平成21年11月5日

【情報提供票より】(平成 21 年 9 月 15 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 15 年 4 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	7 人
職員数	9 人	常勤 6 人	非常勤 3 人 常勤換算 5.3 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り
	2 階建ての～ 1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	65,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無(一時金を含む)	有(165,000 円)	有の場合償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	200 円	昼食	200 円
	夕食	400 円	おやつ	200 円
	または1日あたり 円程度			

(4) 利用者の概要(9 月 15 日現在)

登録人数	7 名	男性	1 名	女性	6 名
要介護 1	0 名	要介護 2	2 名		
要介護 3	1 名	要介護 4	1 名		
要介護 5	3 名				
要支援 1	0 名	要支援 2	0 名		
年齢	平均 80.8 歳	最低	76 歳	最高	87 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	北口内科、大賀内科、前田歯科
---------	----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

民家を改造して開設された事業所であり、共有スペースの和室にふりそそぐ日の光は優しく、ゆっくりとどかな時間が流れており、落ち着いた空間となっている。開設から6年目を迎え、車椅子利用者の増加に伴い、様々な取組みが難しくなっているなか、近隣の住民や保育園児との交流、日々の散歩時の挨拶など、地域との普段着のつきあいが行われている。毎月の幸せ会議(利用者との話しあいの場)は、利用者一人ひとりの希望や要望の把握のみならず、利用者に語ってもらうことで利用者の五感に働きかけ、記憶を呼び起こす刺激の場となっている。毎月の通信で、利用者のありのままの姿を伝えることにより、今後起こりうる状態変化を冷静に正面から受け止めてもらえるよう働きかけが行われている。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 前回の評価結果に関しては、運営推進会議や会議にて報告・検討を行うなどの取組みがある。この過程を通じて、利用者一人ひとりを家族と想ってケアを実践する取組みや利用者に寄り添うケアを再度認識するなど、日々のケアの振り返りと質の向上へ向けた取組みがある。
	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は、項目によって個別に職員から意見を聞くなど、職員と一緒に考えての取組みがある。この過程で、地域との交流やその時々状況に応じたケア、利用者の状況の低下に伴う家族との連携の重要性に再度気づくなど、質の向上へ向けた取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6) 民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員、家族等が集っての2ヶ月毎の開催がある。ホーム状況や外部評価結果についての報告のほか、民生委員より生活保護受給者の受入れ先等について質問が出たり、地域高齢者の状況について情報を得るなど、活発な会議となっている。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9) 家族会時や面会時の声かけ、その都度の電話連絡、毎月の“通信”及び写真の送付などを通じて、家族の思いや意見の表出に努めている。出された意見等は、会議で協議して介護計画書に反映させるなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 日々の散歩時の声かけ、地域行事への参加、自治会長との連携、工事の騒音に対して近隣の方が意見を言うなど、普段着のつきあいが行われている。また、ホームを開放して地域交流会を開催するなど、地域住民との交流を積極的に図るための取組みがある。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	開設当初より、地域とのかかわりを意識し、 利用者一人ひとりの個別性を大切にケアに 取り組んでいる。		今ある理念を基本とし、地域や利用者、事 業所の状況にあわせて、全職員がかかわっ て、柔軟に見直し書きかえを行い、より深い 理念の実践へ取り組まれることを期待しま す。
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	事務所内に掲示してあり、常に目につく工夫 がある。また、毎月の会議時に、理念に基づ いたケアへの取組状況を振り返りながら説明を 行うなど、理念の実践にむけた取組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	日々の散歩時の声かけ、地域行事への参加、 自治会長との連携、工事の騒音に対して近隣 の方が意見を言っていたりなど、普段着のつき あいが行われている。また、ホームを開放して 地域交流会を開催するなど、地域住民との交 流を積極的に図るための取組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の評価結果に関しては、運営推進会議や 会議にて報告・検討を行うなどの取組みがあ る。今回の自己評価は、項目によって個別に職 員から意見を聞くなど、職員と一緒に考え取 組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている	関係者が集っての2ヶ月毎の開催がある。 ホーム状況や外部評価結果についての報告の ほか、民生委員より生活保護受給者の受入れ先等 について質問が出たり、地域高齢者の状況につ いて情報を得るなど、活発な会議となっている。		家族への運営推進会議の議事録の送付を通 じて、家族との更なる連携や情報提供を図 り、様々な制度等についての理解の浸透が図 られるような取組みを期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会 議以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	運営推進会議への地域包括支援センター職員 の参加がある。ホームの建替、増設等に関し て相談に行き、アドバイスをもらうなどの連携が図 られている。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事 業や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	制度等に関する研修会への参加と報告会を通 じて、職員の理解を深めるための取組みがあ る。家族へは、契約時の説明及び家族からの相 談対応等を通じての情報提供が行われている。		運営推進会議等を利用しての地域包括支援 センター職員や専門家等による講話を通じ て、定期的な情報提供の機会を設け、広く情 報を発信し、制度の正しい理解と周知に努 め、必要な時に確実に利用できるような支援 を期待します。
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につい て、家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	家族会の時や面会時の声かけ、その都度の電 話連絡、毎月の“通信”及び写真の送付など を通じて、様々な報告や説明が行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	家族会の時や面会時の声かけ、その都度の電 話連絡、毎月の“通信”の送付などを通じ て、家族の思いや意見の表出に努めている。出され た意見等は、会議で協議して介護計画書に反映 させるなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、 代わる場合は、利用者へのダメージを防 ぐ配慮をしている	新しい職員が入職した場合は、研修として認 知症の理解から入り、ケアの場面では、先ずは 利用者に寄り添い、利用者を知ることから始め るなど、理論に基づいたケアの提供と利用者 との馴染みの関係づくりへの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の募集に関して、ヘルパー2級を条件付けているが、その他の制限は何ら設けておらず、やる気や思いやり、人間性を重視しての採用である。生け花の免状を取得している職員が利用者と一緒に生け花を活けたり、長く調理に携わっていた職員に調理をお願いするなど、職員の得意分野で能力を發揮できるような取り組みがある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	公民館で行われる講話や外部研修への参加と報告会の実施を通じて、全職員が人権について理解するための機会がある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画に基づいた指導、自己分析の実施と自己分析結果に基づいた全職員での協議など、新人職員を1年かけて育てている。また、年間計画の中に各種研修を位置づけ、全職員が何らかの外部研修に参加できるよう取り組みが行われている。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センター職員が中心となり、近隣の事業所合同による施設長会議が、今月末に開催される。		今月末に開催予定である施設長会議を通じて、管理者のみでなく、一般職員の交流を実践され、質の向上に向けての情報交換、職員の気づきやモチベーションをあげる機会となるような取り組みを期待します。


外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	1週間の体験利用から始め、利用者・家族が納得後、入居契約を行うなど、利用者の精神面に配慮した馴染みの関係づくりへの取り組みがある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の体験談や昔の暮らし方など、日々のかかわりの中で利用者から様々なことを学び得ている。また、利用者からの励ましやいたわりの声かけが、職員にとって得難い宝となっている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のかかわりや毎月の幸せ会議（利用者との話しあいの場）時を利用して、利用者一人ひとりの希望や要望、今までの生活様式等の把握に努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日々のかかわりや毎月の幸せ会議時を利用して、利用者一人ひとりの希望や要望の把握に努めている。また、家族会や面会時、その都度の電話連絡などを通じて、家族の思いや意向の把握に努めている。把握した希望等を基に、全体会議にて協議し、介護計画書へ反映させるなどの取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	毎月の全体会議時に、担当職員が中心とな り、全職員の気づきの集約と情報の共有が図ら れ、必要に応じてその都度の介護計画書の見直 し・再作成が行われている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	ホーム行事としての外出支援、移動販売を利 用した食事会、個別支援としてのお芝居見学や 毎日のノアルコールの提供、車椅子利用者の毎 日の散歩への取組みなど、柔軟な対応が行われ ている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時に今までのかかりつけ医の継続とホー ム協力医療機関の利用について相談を行い、本 人・家族の希望に沿って支援している。週1回 の訪問歯科の利用があり、主治医より紹介を頂 いて専門医療機関の受診を行うなどの支援があ る。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	急変時の対応として、重度化や終末期に向 けたホームの体制について家族会時に説明・同意 を得ている。幸せ会議にて利用者の意向の把握 が、家族面会時等に家族の意向の把握が行われ ている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	タイミングを見計らった丁寧な声かけ、居 室に入る前の本人同意のための声かけと確認、 利用者の出来る事を見守りながらの支援など、 利用者の精神面でのかかわりに配慮した対応が 見られた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての基本的な流れはあるものの、 食事を取る場所やタイミング、日中の過ごし方 など、利用者の希望に合わせた支援が行われて いる。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	料理の下ごしらえや下膳、食器洗いや食器拭 きなど、利用者の出来る範囲で職員と分担しな がらの取組みがある。調理に伴う匂いや音など で五感へ働きかけ、食事時間が楽しみとなるよ うな工夫がある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	日曜日以外、入浴の準備は毎日行っており、 利用者の状況や希望に応じて、柔軟に対応して いる。入浴にかかる時間やタイミングなど、利 用者の希望に沿った対応が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	居室の掃除、裾の補整、洗濯物干しやた たみ、料理の下ごしらえ、新聞の取り込み、手押 し車を使用しての散歩、毎日のノンアルコール ビールの提供等、利用者一人ひとりの希望や出 来ることを把握しての支援がある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	毎月のホーム行事としての外出や外食、芝居 見学、地域行事への参加、日々の散歩などの外 出支援が行われている。利用者の状態により、 ウッドデッキを利用しての外気浴の実施など、 その時々状況により柔軟な対応が行われてい る。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は、常に開錠されている。利用者の所在 確認と職員同士の所在確認を通じて、十分な見 守りを行うなどの取組みがある。また、ホーム 勉強会で取り上げ、鍵をかけることの弊害につ いての認識とリスク等を含めて理解を図るため の取組みがある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	事業所独自の避難訓練が、年2回行われて いる。2階の利用者を実際にベランダへ誘導し たり、消火器の使い方を学ぶなど、実技を織り 交ぜながらの指導が行われている。		非常災害時等の初期対応として、近隣の協 力支援が得られれば、何よりも心強い備えと なるものと思われます。地域との協力体制作 りへの取組みを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	栄養士が立案したメニューを参考に、利用者 の希望や旬の食材を取り入れた献立を作成して いる。毎食の食事摂取量の記録を行い、1日 1500ccを目標とした水分摂取に心がけるなど の支援が行われている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	民家改造型の事業所であり、建物自体が地域 に溶け込んでいる。リビングや廊下に、地域交 流会や外出時の写真が飾られ、共有スペースで ある和室にふりそそぐ日の光は優しく、ゆっく りとのどかな時間が流れており、落ち着いた空 間であった。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	居室には、ベッドや机、テレビ、趣味の本、 整理箱などが持ち込まれており、それぞれの利 用者の人となりが見える居室となっていた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号